

二〇一九年度

豊島岡女子学園中学校

入学試験問題

(二回)

# 国語

## 注意事項

- 一. 合図があるまで、この冊子を開いてはいけません。
- 二. 問題は  から  2 ページから 19 ページまであります。  
合図があったら確認してください。
- 三. 解答は、すべて指示に従って解答らんに記入してください。

一 文筆家であった坂口安吾（一九〇六―一九五五）は、「日本文化私観」という文章で、ドイツの建築家であったブルーノ・タウト

が日本建築や日本文化の美について書いた文章を批判しました。次の文章は、筆者がそれについて述べたものです。この文章を読んで、後の一から十の各問いに答えなさい。なお、作問の関係上、一部省略した所があります。

（字数指定のある問いはすべて句読点・記号も一字とする。）

安吾は、一九四二年に「日本文化私観」という文章を書いた。なかで、法隆寺や桂離宮をはじめとする建築文化史上の遺構を、あなどっている。それらは、なくなってもかまわないとさえ、言いきった。のみならず、タウトを見くびるような指摘も、のこしている。

桂離宮なんか、どこが良くてみんなありがたがるのか。私はそんな想いをこめつつ、自分の本を書いている。そして、桂離宮への無理解を軸にしながら、一冊をまとめあげた。安吾に似ていると言われることも、まったくわからないわけではない。

しかし、私は安吾の「日本文化私観」をきらっている。あんなのとはいっしょにされたくないという想いを、ながらくいだいてきた。

「日本文化私観」には、バラックへの言及がたくさんある。そして、そのどれもが、肯定的に言いおよんでいる。歴史の由緒があったり、美術的にみがきあげたような建物はいらぬ。精神さえすこやかであれば、建築はバラックでじゅうぶんだ。そうあちこちで、言いはなっている。たとえば、こんなふうに。

「京都や奈良の古い寺がみんな焼けても、日本の伝統は微動もしない。日本の建築すら、微動もしない。必要ならば、新たに造ればいいのである。バラックで、結構だ」

「法隆寺も平等院も焼けてしまつて一向に困らぬ。必要ならば、法隆寺をとりこわして停車場をつくるがいい。……我々の生活が健康である限り、西洋風の安直なバラックを模倣して得々としても、我々の文化は健康だ。我々の伝統も健康だ。必要ならば

公園をひっくり返して菜園にせよ」

さすがに、日本の戦時体制も、法隆寺や平等院を、わざわざこわしはしなかった。その跡地にバラックや停車場などを、もうけてはいない。その意味で、①安吾の言いつぶりは、国家の実践より急進的である。

しかし、戦時下には、たとえば鹿鳴館が解体された。その同じ場所には、生産力のAゾウキヨウをあとおしするバラックのオフィスが、たてられている。明治外交史の記憶をとどめる、その意味では歴史的な意義のある建築が、こわされた。歴史的建造物は、役にたつとみなされた安普請の施設に、とつてかわられたのである。

建築家の谷口吉郎は、消えゆく鹿鳴館をおしんでいる。戦時下の一九四〇年に、その気持ちを新聞紙上へあらわした。なんとかあれを、博物館としてでもこのこす手はなかったのか。そう読者へ問いかけ、国是にはよりそわない姿勢をしめしている。

国民精神の総動員が、当時はさげばれていた。②「贅沢品は敵だ！」とも言われている。時代のいきおいは、うたがいようもなく鹿鳴館的なものの排除を、めざしていた。谷口は、この時流にそむく気概、抵抗の精神を見せたのだと、私は思う。

これにたいし、安吾は揚言した。建築文化なんか、なくなってもいい。「バラックで、結構だ」。「バラック」でくらしなくても、「我々の文化は健康」である、と。

私にはこの言動が、戦時体制の旗振りめいた物言いとしてひびく。国民精神総動員の御先棒をかついだ文士のように、安吾のことは思えてくる。

じっさい、日本政府は都市建築のバラック化を、おしすすめていったのだから。

私じしんは、そんな安吾をきらい、谷口に気持ちをよせてきた。「安吾を韜晦させた……井上章一」というような批評には、まったくなじめない。

敗戦後の日本は、主要都市の多くが焦土となったなかでの復興を、しいられた。そして、二〇世紀の後半には、そこへBテッキンコンクリートのビルなどを、たてている。

もちろん、戦時中の空襲くうしゅうをまぬがれた戦前以来の建築も、いくらかはのこっていた。なかには、建築史上の傑作けつさくと言えるような物件も、なかったわけではない。だが、戦後の③スクラップ・アンド・ビルドは、そういう建物をもふくめ、すすんでいった。建築の歴史的価値はかえりみられず、新しい施設しせつへとたてかえられたのである。

そのきざしが、戦前期になかったわけではない。「日本文化私観にほんぶんかしかん」にも、こうある。

「多くの日本人は、故郷の古い姿が破壊はかいされて、欧米風な建物が出現するたびに、悲しみよりも、むしろ喜びを感じる。新らしい交通機関も必要だし、エレベーターも必要だ。伝統の美だの日本本来の姿などというものよりも、より便利な生活が必要なのである……我々に大切なのは『生活の必要』だけで、……生活自体が亡びない限り、我々の独自性は健康なのである」

これも、スクラップ・アンド・ビルドを肯定する発言になっている。建築の文化をあなどり、便利なもの、必要なものだけを、たてていく。そんな戦後史をも、Cヨケンシテキ的に見とおす指摘してきだと言える。

そして、これを書いた安吾あんごは、戦時下のバラックをも良しとした。バラックを是ぜとしつつ、スクラップ・アンド・ビルドをもうけられる。戦前、戦時、そして戦後もつらぬく④即物主義そくぶつしぎを、私にはそう読めるが、提示したのである。

建築に関しては、文化的な価値や歴史的なそれにとらわれなくてもいいと言う。便利なもの、必要なものをたてていこうとする日本近代を、まるごとうけいれた。そもそも、日本人はそういう民族なんだ、と。「日本文化私観にほんぶんかしかん」は、以上のように見きつたうえで、これを肯定こうていした文章にほかならない。

明治の新建築も、戦時下のバラックも、この同じ構えで、肯定的に論じられる。戦後のビル建設ラッシュには、もちろん言及げんまうされてはいない。しかし、「日本文化私観にほんぶんかしかん」は、予言の書でもあるかのように、そこも見すえていた。

安吾あんごの書きっぷりを深刻にうけとめ、賛嘆さんたんをおしまぬ文芸畑の人は、少なくないだろう。だが、けつきよくそれは日本の実態を肯定こうていし、そこにひらきなおっている。現代までふくむ、日本近代への応援歌おうえんかめいた文章でしかないのである。

とはいえ、私にも安吾あんごの日本像が日本近代の姿そのものであったことは、のみこめる。日本は、安吾あんごがしめしてきたように走っ

てきたなど、しみじみそう思う。しかし、⑤西洋的な建築文化の蜜をなめたことのある私は、この考えによりそえない。

言葉でくみだてられる文芸は、観念そのものをつかみとることができる。だが、建築や庭園といった第二級の媒体には、その能力がない。安吾の論法は、つねにそういう形で、すすめられていく。

話は単純である。言葉をつかう言語芸術はえらい。建築をはじめとする非言語表現は、くらべて見おとりがする。ただそう言っているだけなのである。一種の文学至上主義が、となえられているにすぎない。

「僕は文学万能だ。……文学を信用することが出来なくなったら、人間を信用することが出来ないという考えでもある」

「日本文化私観」には、そんな文句もある。ここに、安吾のD地金が、⑥あられもなく露呈していると、私は見る。けっきょく、文学ばんざいという側の書き手だったのだと、あきれている。

つづいて、仏教や僧侶と寺院建築が対比的に論じられたくだりを、ひいておく。

「寺があつて、後に、坊主があるのではなく、坊主があつて、寺があるのだ。寺がなくとも、良寛は存在する。若し、我々に仏教が必要ならば、それは坊主が必要なので、寺が必要なのではないのである」

本質は宗教と宗教者にある。宗教建築は、その表層でしかないということか。

建築びいきの私には、まったく逆の構図も脳裏をよぎる。宗教が信仰という本質をうしなつても、建築は生きのこりうる。堂塔の輪奐を、宗派のちがう人びとにも、うったえかけることができる。あるいは、無神論の人びとにも。古代ギリシアの信仰はとだえても、バルテノン神殿がかがやきつづけたように。⑦大いなる形骸として。

( 『日本の醜さについて』 井上 章一 )

〔 注 〕

\* 1 バラックⅡ簡素に造った小さく粗末な建物。

\* 2 得々とⅡ得意そうな様子。

\* 3 安普請Ⅱ安い費用で建物を建てること。また、そうして建てられたあまり上等でない建物のこと。

- \* 4 国是こくぜ 〓 国家や国民が正しいと認めた、政治の方針。 \* 5 揚言ようげん 〓 公然と言うこと。強調して言うこと。
- \* 6 御先棒おさきぼう をかっついた文士 〓 ここでは、戦時中に国家の方針を支持して国民を誘導ゆうどうした文筆家のこと。
- \* 7 韜晦とうかい 〓 自分の本当の考えなどを目立たないように包み隠かくすこと。
- \* 8 焦土しゅうど 〓 戦争で焼きはらわれた土地。焼け野原。 \* 9 観念くわんねん 〓 ある物事についての考えや意識など。
- \* 10 媒体ばいたい 〓 伝達のための仲立ち。たとえば、目に見えない音を、目に見える形で人に伝える文字なども媒体。
- \* 11 露呈ろてい 〓 隠れているものが現れ出ること。さらけ出すこと。 \* 12 良寛りょうかん 〓 江戸時代の僧侶そうりよの名。
- \* 13 堂塔どうとう 〓 寺院のお堂や塔。 \* 14 輪奂りんかん 〓 建物が壮大そうだいで美しいこと。
- \* 15 パルテノン神殿 〓 古代ギリシヤに造られた神殿。現在も首都アテネの丘の上に建つ。

問一 〓 線 A 「ゾウキヨウ」、B 「テツキン」、C 「ヨケン」を漢字に直しなさい。解答らんの大きさに合わせて一画一画はつきりと書くこと。

問二 太線 D 「地金じがね」とありますが、「地金じがね」のここでの意味として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 加工する前の素材
- イ もともと持っている輝かがやき
- ウ 打たれ弱い内面
- エ 隠かくしていた本心
- オ 手に入りにくい才能

問三 〓 線 ① 「安吾あんごの言いつぶりは、国家の実践じっせんより急進的である」とありますが、どういうことですか。その説明として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 戦時下において国家が歴史的建造物を取り壊してバラック建設を行ったのは事実だが、それはやむを得ない場合に限られ、寺院をすべて取り壊して停車場をつくるべきだという安吾あんごの主張は、国家以上に便利さを追求するものだということ。

イ 戦時下において国家がバラック建設をすすめたのは事実だが、伝統的な古寺を壊すことまではしなかったため、必要に応じて京都や奈良の寺院を取り壊しバラックや停車場をつくれという安吾の主張は、国家以上に極端なものだということ。

ウ 戦時下において国家が質素儉約をすすめたのは事実だが、それは新しく建てる建物の話であり、すでにある豪華な建造物をわざわざ取り壊してでも質素なバラックにするべきだという安吾の主張は、国家以上に厳しいものであったということ。

エ 戦時下において国家が国民精神の総動員を求めていたのは事実だが、国民の精神が健康であるならばあらゆる建造物をバラックにしてしまえばよいという安吾の主張は、国家以上に国民の生活を制限しようとするものであったということ。

オ 戦時下において国家が便利さを優先した建て替えをすすめたのは事実だが、歴史的意義のある建物の保護も同時に行っており、京都や奈良の寺院を不要と論じた安吾の主張は、国家以上に古い建築物の価値を軽んじるものだという事。

問四 —線② 『贅沢品は敵だ!』 〈鹿鳴館的なものの排除をめざしていた〉とありますが、ここでいう「鹿鳴館的なもの」とは建築においてはどのようなもののことですか。適当な表現を本文中から二十六字で探し、最初の五字を抜き出しなさい。

問五 —線③ 「スクラップ・アンド・ビルド」とありますが、ここではどのようなことだと読み取れますか。最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 伝統や文化を継続しながら、新しいものを取り入れて変化させること。

イ 先人が作り上げた物の価値を忘れて、新たな価値を創造すること。

ウ 古い建物を次々に取り壊して、別の新しい建物を建設すること。

エ 歴史的な建物を保存しながら、新しい建築技術を使って改良すること。

オ 破壊されてしまった建造物を、できるだけ元通りに建て直すこと。

問六 ―線④「即物主義」とありますが、「即物主義」とはここではどのようなことですか。その説明として最も適当なものを次の

ア、オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 物体の形で表現されるものにこそ意味があるのとらえること。

イ 欧米風おうべいふうの新しいものが作られることを何よりも喜ぶこと。

ウ 外見が美しく目を引くものを作りだすことだけを望むこと。

エ 生活に必要であることや便利なのが重要だととらえること。

オ 独自性があるものを新しく生み出すことにこだわること。

問七 ―線⑤「西洋的な建築文化の蜜みつをなめたことのある私は、この考えによりそえない」とありますが、ここで筆者の言う「西洋的な建築文化」とはどのようなものだと考えられますか。「この考え」（建築に対する安吾あんごの考え）から推測して七十字以

内で説明しなさい。

問八 ―線⑥「あられもなく」とありますが、本文中の「あられもない」の意味と同じ用いられ方をしているものとして最も適当

なものを次のア、オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア いくら暑いといってもあられもない服装で外に出るな。

イ 連休中は雨が続き、本ばかり読むあられもない毎日だった。

ウ 海岸に打ち寄せる波をあられもなくぼんやりと眺めるなが。

エ 足し算や引き算の問題なんてあられもなく解くことができる。

オ 厚い雲に覆われたあられもない空を見上げ、ため息をつく。

問九 ―線⑦「大いなる形骸」とありますが、ここではどのようなものですか。その説明として最も適当なものを次のア、オの中

から一つ選び、記号で答えなさい。なお、「形骸」とは「形だけのもの」という意味です。

ア 信仰しんこうがなくなり建物だけになっても、当時の文化のすばらしさを人々に伝え続けるもの。

イ 住人がいなくなり建物だけになっても、当時の洗練された生活の様子を人々に伝え続けるもの。

ウ 歴史を語る人がいなくなり建物だけになっても、当時の偉大いだいな思想を人々に伝え続けるもの。

エ 宗派がなくなり建物だけになっても、当時の宗派みかが磨いた建築技術の高さを人々に伝え続けるもの。

オ 技術者がいなくなり建物だけになっても、当時価値があるとされた美的感覚を人々に伝え続けるもの。

問十 波線部「あんなのとはいっしょにされたくない」とありますが、筆者がこのように思うのはなぜですか。その説明として最

も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 建築が歴史的に果たしてきた役割に価値を見出している筆者は、現在の生活に必要なかどうかだけを価値の基準として、不要なものは壊こわせばいいと考えている安吾あんごの主張に共感できないから。

イ 人類の文化の発展を示すものは建築だと考えている筆者は、古くからある寺院を取り壊こわして新しいものを作ることにのみよって文化の発展を示そうとする安吾あんごの主張を理解できないから。

ウ 思想は目に見えないが、建築は目に見える形で残せることに価値があると考える筆者は、人間の必要に応じて建築物を建て替かえるべきだという安吾あんごの主張を浅はかだと感じるから。

エ 建築だけが信仰しんこうなどの観念を美しく表現できるものだと考える筆者は、建築を第二級の表現方法とし、言語表現だけが観念を示しうるものだと主張する安吾あんごの主張を認めていないから。

オ 年月を経て残りうる建築の持つ歴史的意義や美しさに価値を見出す筆者は、それらは文芸おとに劣るから便利さのために壊こわしたり建て替かえたりしてもかまわないという安吾あんごの主張を受け入れられないから。

二 次の文章を読んで、後の一から七の各問いに答えなさい。

(ただし、字数指定のある問いはすべて句読点・記号も一字とする。)

わたし(ひかり)は、信介しんすけや盲目もうもくのひろちゃんたちとバンドを組み、コンクールの一次審査しんさに向けて練習している。ある日、そのメンバーでプールに行くと、ニンジン色の髪かみをして仲間を従えているアイツが、ひろちゃんにぶつかってきた。アイツはどなってきた後、「おにいさん、目が見えないんですか？ 見えないんだったら、こんなところ来ないほうがいいですよ。」とわざとばかりいねいな言い方をしてきた。ひかりは奥歯おくばがぎりつと鳴った。「この人は見えなくても今までずっとちゃんと泳いでいたのよ。あなたたちのほうが、よっぽど、あぶないじゃないの！」そう言い返した。

その翌日、事件は起きた。点字図書館から出てきたひろちゃんをアイツはつけていったのだった。

ここだ。あの時ひろちゃんは、傷つけられてたおれた。ひろちゃんの指の間からあふれだしてきた真っ赤な血。今もわたしの脳裏に焼きついている。

立ちすくんでいたとき、聞きなれた歌が聞こえてきた。

なにも見えないと あきらめないで

だれの心にも きつとあるはず

ほんとうの瞳めが

だからもう一度 探してみようよ

見ようとしなから 見えないのよ

見ようとするから シャイン シャイン

心の中にあたたかく静かにしみこんでいく歌声。

デモテープしか作っていないこの歌を、いつたいだれが歌っているというの？

ガードレールの下に、人がまばらに集まっている。その真ん中で、だれかがギターを弾いて歌っている。人垣の間からのぞいて、息を飲んだ。

ニンジン色の髪。アイツだった。

コンクリートの上に、すりきれたGパンをはいてすわりこんで、アコースティックギターを弾いている。

小さめの顔に、つんつんはねた髪。たしかにアイツなのに、うつむいて歌う顔の表情が違いすぎる。顔や体全体から感じられた陰が消えている。①いかって肩がさがり、柔和な表情をしている。

このすぐそばで、ナイフをふりおろして逃げたアイツのすがたと、あふれてきた真っ赤な血がフラッシュバックする。

なぜ？ なぜ、少しの間に、こんなにも変わってしまったの？

アコースティックギターの調べと歌声がしっくりと溶けあって、さっき見た夕暮れみたいにやさしい。

わたしたちの歌が、こんなにアコースティックギターにあうとは思わなかった。それに、男なのにわたしと同じキイで歌えるなんて。ひろちゃんは、もう気づいていたんだ。

通りゆく人びとも、思わず立ち止まって聴き入ってしまったんだろう。演奏が終わるまで、だれも立ち去ろうとしなかった。

だけど、わたしはまだこの人を信用できない。それに、無断でわたしたちの歌を演奏するなんて。

演奏が終わり、拍手をしたり、「いい感じだね」などとおしゃべりしながら、人びとはそれぞれの目的地に向かって動きはじめた。

会社帰りのサラリーマンらしい男の人が、

「心にしみたよ。これ」

と言って、千円札を一枚渡そうとした。

「いえ、もらえません。自分の歌じゃないので」

アイツは、どうしても受け取ろうとしなかった。

少し残念そうに、その男の人が立ち去ると、いつのまにか、わたしひとりが立っていた。

ギターをケースにしまつて、アイツは立ちあがろうと顔をあげた。

そして、そのまま②かたまつた。

「じゃあ、ひろちゃんから送ってきたテープをなんども聴いて、おぼえたのね」

「はい。すみません、勝手に歌ってしまつて」

わたしの買ってきたアイステイを一口も飲まないまま、アイツは答えた。

おどろいている彼を、半ばむりやりハンバーガーショップに誘つた。

「あのさ、わたし年下なんだし、そんなに緊張しないでよ」

つとめて明るく言うと、彼は意を決したように、顔をあげて、まっすぐわたしを見た。

「ごめんなさい」

精一杯そう言うと、深く頭をさげて、またずっと顔をあげない。

こういうとき、いったいどうしたらいいんだろう？ なにか話さなくちゃいけない。

「わたしに、あやまつたつて。それより、ひろちゃんに」

と言つてから、よけいだつたかなつて、後悔した。だけど、彼はようやく頭をあげて、ぼそぼそ話しはじめた。

「あやまつてもあやまつても足りないけど、保護司のおっさんとあやまりに行きました。そのあと文通させていただけます」

ちつとも知らなかった。

「おれ、広志さんと保護司のおっさんのおかげで、やっと人間らしくなりました」

下宿までさせてくれている保護司の人は、自分の息子のようになんどうを見たり、叱ったりしてくれているらしい。ひろちゃん  
は、音楽が好きだという彼のために、自分の尊敬するアーティストのテープを送ったり、彼の演奏の指導を手紙やテープでしてく  
れているという。

「今まで、お金だけ与えればいいと思っっている親に育てられ、っていうより、両親はほとんどが海外暮らしで、そばにいなかった。  
まわりの奴らも、金で買った友だち関係だったから、表面だけおれにさからわないで、調子をあわせるだけ。あのプールで、はじ  
めてホテルの人から注意されたんだ。親からも叱られたことないのに、なんだよ、むかつくって思った。あいつらがチクリやがっ  
たからだって」

信介の父親がホテルで働いてる関係で、信介はホテルのマナージャーを知っている。そういえば、あの時信介が、ホテル側から  
注意してもらおうように頼んだって、言ってた。

「それに、広志さんのことは、目が見えないくせに彼女や友だちと楽しそうにしゃがって、無性にむかついたんだ。それで、次の  
日、偶然に見かけて、いじめたくなった。待ちぶせしている間に、『目を刺してやろう。どうせ見えないんだから、つかまっても罪  
がかかるだろう』って思った」

「ひどい！」

思わず、声をあげた。

「だから、ほんとうにごめんなさい」

彼は、また頭をさげた。やっぱり、もうあの時のアイツじゃなかった。

「ねえ、そんなふうにししか考えられなかったのに、③ どうして心に化学変化が起きちゃったの？」

「保護司のおっさんに出会って、自分のしたことの愚かさ（おろ）に気づいたんだ。おっさんはおれをばげしく叱（しか）った。『ばかやろう、おまえのやったことは最低のことだ。罪がかるくなるどころか、一生背負（かた）っていくくらい重いぞ』って」

自分に言い聞かせるように、話している。ほんとにこの人、変わった。肩（かた）をゆらして、じろじろとひろちゃんを見ていたのに。『命にいらぬものなんてないんだ。いらぬものは、なんでも金で買えるって思ったり、どうせ見えないからなんて思うおまえの気持ちだ！』って。

おっさんは、おれを下宿させてくれて、毎日何時間でも話しあってくれるんだ。ほんきで向きあって、叱（しか）ってくれるんだ。

おれ、広志（ひろし）さんにあやまりにいろいろ自分で決めて、おっさんと訪ねていったんだ。はじめて『ごめんなさい』って頭をさげた。ほんとに、生まれてはじめてだった。そしたら、広志（ひろし）さんが「

そこまで言うよ、彼（かれ）の声が止まった。

彼の（かれ）前（まえ）にある、アイステイの氷（こ）はどんどん溶（と）けていく。

「アイステイ、飲んで」

わたしは、つぎの言葉を待った。

彼は（かれ）、うすまったアイステイをストローで一口飲むと、少し心落ちついたのか、また話（わ）しだした。

「おれがあやまると、④広志（ひろし）さんは『おれのほうも、ごめんなさい』って言うんだ。おれ、わけわかんなくて」

「え？」

わたしも、さっぱりわけがわからない。

「広志（ひろし）さんが言うには、『自分はハンディキャップを差別するやつには人の痛みはわからないと、いつも思っていた。だから、そういうやつらに、おれは勝（か）っているって。だけど、そう思うことも差別だったんだ。だって、きみも心のハンディをかかえて苦しんでいたんだから。勝ちも負けもないんだ』って」

⑤ そんなこと、気づきもしなかった。わがままな金持ちのおぼっちゃまでサイターのやつとしか思わなかった。

「おれ、そんなこと言われて、はじめは、むりしてるとって思った。広志さんの片目をあんなふうにしたのは、このおれなんだから。だけど、広志さんからシャイン♪キッズのテープ送られてきて、演奏とひかりさんの歌声を聴いているうちに、心からそう言うてくれているってわかったんだ」

「わたしたちの歌を聴いて？」  
信じられなかった。

「おれ、こんなやつだけど、音楽好きで。ちっちゃい時、わがまま言って、ギターを買ってもらってから、ギターだけがほんとうの友だちだった」

この人、ほんととはずっとさみしかったんだ。

「いろんな歌を弾いてきたけど、シャイン♪キッズの歌に出会って、なんか心に來た。ひかりさんが作詞したって聞いたけど、あの詩、サイコーっす」

あんまりストレートに言われて、「は、ありがとう」としか言えなかった。だけど、あの詩が、彼の心にどう作用したんだろ。「見えないはずのものさえ、見ようとすれば、見えるって言っているから」

それって。そうか、ひろちゃんはサイターって思ってたやつの中の心を見ようとしたんだ！ だから、見えてきたんだ。そしてこの人も見ようとしている。なんか突然、目の前のぼんやりしたものが見えてきたような、不思議な気持ち。惹かれるように、この人の話を聞いてしまう。

シャイン♪キッズの歌を聴いてから、文通ははじまったという。

「はじめは、広志さんがワープロで手紙くれて、おれはテープで声や演奏の返事送っていたんだ。だけど、高田馬場にバイト先見つけて、帰りに点字図書館に行ってみたらさ……」

かれの目が、明るくなってきた。話していくうちに、自分の顔が輝かがやいていつていることに、この人は気づいていないんだろうな。彼は、点字図書館で小学生用の点字練習セットを購入こうじゆうし、独学で点字をおぼえはじめたというのだ。

「秋からは、点訳者になるためのセミナーにかようことにしたんだ」

「すごい、負けそー」

わたしなんか、まだおぼえもしていないのに。

「いや、まだ、かんたんな言葉でしか打てないんだけど」

はにかみながら話す彼かれを、まぶしいなって思ってしまった。

「あした、どんなことがあっても、わたしたちの練習時間に顔だして」

⑥ ぜったいだよ！ と念をおして別れた。

( 『シャイン♪キッズ』 光丘 真理 )

光丘

真理

〔注〕 \* 保護司 〓 犯罪を犯した青年などを保護観察し、社会復帰を支援しえんする人。

問一 ―線①―「いかっていた肩かたがさがり」とありますが、「いかっていた肩かた」という表現から読み取れる、かつてのアイツの様子と

して、最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 愛情というものを知らないため、とげとげしい態度をとっていた様子。

イ 金持ちであることを自慢じまんするため、高価なものを見せびらかしていた様子。

ウ 大切に特別扱いされてきたため、誰だれに対してもえらそうに接していた様子。

エ 寂さびしさを忘れたため、多くの仲間がいるように見せかけていた様子。

オ 自信がないことを隠かくすため、自分は優れているのだと強がっていた様子。

問二 ―線②「かたまつた」とありますが、アイツはなぜ「かたまつた」のですか。最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ひかりの突き刺さるような鋭い目つきを見て、自分の過ちがよみがえり、自責の念にかられたから。

イ 自分が無断でひかり達の作った曲を演奏していたのを聞かれてしまったので、気まずいと思ったから。

ウ 自分が悪いことをしたのに人前に堂々と出ているところをひかりに見られて、恥ずかしかったから。

エ 他の人たちがいる前でひかりから事件のことを暴露されるのではないかと思い、恐ろしかったから。

オ ひろちゃんと文通していることを知られてしまい、ひろちゃんに迷惑をかけて悪いと思ったから。

問三 ―線③「どうして心に化学変化が起きちゃったの？」とありますが、アイツは、どのような出来事によってどう変化したのですか、本文中の語句を用いて八十文字以内で説明しなさい。

問四 ―線④「広志さんは『おれのほうも、ごめんなさい』って言うんだ」とありますが、広志はなぜ、謝ったのですか。最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 身体的ハンディを負っている人より精神的ハンディを負った人の方がつらいということを今まで気づいていなかったから。

イ 自分を差別する人達の内情も理解しないまま逆に彼らに優越感を持っていた自分の差別意識に今はじめて気づいたから。

ウ 自分は被害者のようでありながら、実はアイツの精神を傷つけた加害者でもあるということに今更ながら気づいたから。

エ 自分のことに精一杯で、身体ではなく精神的なハンディを抱えている人もいるということに気づいていなかったから。

オ 自分はハンディを負っているのだからみんなから労わってもらって当然なのだと思ひ込んでいた自分自身に気づいたから。

問五 ―線⑤「そんなこと、気づきもしなかった」について、次の各問いに答えなさい。

(1) ひかりには気づけなかった、アイツのどのようなことに広志は気づいたのですか。最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア アイツが仲間を従え威張り散らしていたのは、実は愛情に飢えていて、寂しさを埋めるためだけだったということ。

イ アイツが自分中心にふるまっていたのは、実はわがままなのではなく、弱さを隠そうとしていただけだったということ。

ウ アイツがサイテーなふるまいを見せていたのは、人から注目を集めようとしてわざとしていただけだったということ。

エ アイツが暗い表情だったのは、小さい頃から才能に恵まれていたのにほめられることもなかったからだったということ。

オ アイツが偏った価値観を持つようになったのは、寂しさを紛らわすために音楽に熱中しすぎたからだったということ。

(2) なぜ、広志は気づくことができたのだとひかりは考えているのですか。その理由を含む一文を本文中より探し、最初の五字を抜き出さない。

問六 ―線⑥「ぜったいだよ！」とありますが、本文全体から読み取れる、ひかりの心の説明としてふさわしくないものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア アイツがひろちゃんとの出会いをきっかけに自分の新たな道を見つけようとしている姿に対して格好よさを感じた。

イ 温かく自分を支えてくれる人たちに耳を傾け、素直に自分自身の変化を見つめる成長したアイツの姿に感心した。

ウ ひろちゃんがアイツの本心を理解していることに気づき、自分もアイツを憎み続けるのではなく許そうという気になった。

エ アイツの演奏を聴いてその音楽の才能に心ひかれ、共感しあえる存在として仲間になれそうだと感じるようになった。

オ 文通をしていたひろちゃんの思いと、仲間に入りたいと願うアイツの気持ちを無にできないという思いがわいた。

問七 波線部「聞きなれた歌」とありますが、この歌の本文における意味についての説明として、最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ひかりがひろちゃんへの応援歌おうえんかとして作った歌が、アイツが物事に真剣しんけんに向き合おうと心を動かすきっかけになった。

イ ひろちゃんの投げやりな心を立ち直らせたいと思ってひかりが作った歌が、アイツの心も立ち直らせることになった。

ウ 夢を失ったひろちゃんを励はげますためにひかりが作った歌が、事件を起こしておびえているアイツを励はげますことになった。

エ 後ろ向きな人に向けて、前向きになってほしいという願いを込こめてひかりが作った歌が、そういう人々の心を動かした。

オ 現実から目を背けている人々へのメッセージとしてひかりが書いた歌が、最も身近にいる仲間の心をつかむことになった。





座席番号				
—				
受験番号				
1	2			

氏名

得点
100

問一	A
増強	
問一	B
鉄筋	
問一	C
予見	
問二	エ

問三	イ
問四	歴
問四	史
問四	の
問四	由
問四	緒
問五	ウ
問六	エ

2点×4
8

問七				
続		か	的	生
け	古	が	意	活
て	い	重	義	に
き	建	要	や	必
た	物	だ	美	要
も	の	と	術	か
の	価	い	的	ど
	値	う	価	う
	を	考	値	か
	認	え	が	よ
	め	に	あ	り
		も	る	も
	保	と	か	
	存	づ	ど	歴
	し	き	う	史

問八	ア
問九	ア
問十	オ

5点×7
35

12点
12

問一	ア
問二	イ

問三					
な	た	た	ツ	と	保
つ	状	こ	の	と	護
た	態	と	本		司
	か	で	心	寂	が
	ら		を	し	ア
		心	見	い	イ
	愛	も	抜	思	ツ
	を	言	い	い	を
	知	動	た	を	真
	り	も	広	し	剣
	人	荒	志	て	に
	間	々	が	い	叱
	ら	し	文	た	っ
	し	か	通	ア	た
	く	っ	し	イ	こ

問四	イ
問五	(1)
問五	ア
問五	(2)
問五	そ
問五	う
問五	か
問五	、
問五	ひ
問六	オ
問七	ア

5点×7
35

10点
10